

# 平成27年No.9 木造軸組工法

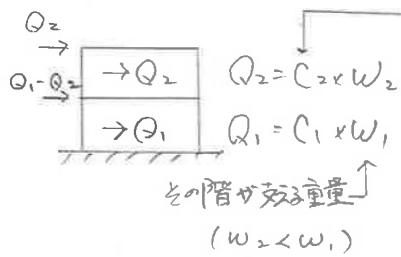
1. 軟弱地盤における標準せん断力係数 → 0.3以上と12ヶ外はならない
2. 同一の水平力に対して必要な耐力壁の量 → 同一受ける面の貝付面積(床面から1.35m以下を除く)に所定の数値を乗じて求める
3. 1, 2階の耐力壁の配置 → 市松状に配置する事は、耐力壁の浮き上がり防止などに効果がある
4. 引張力のみを負担する筋かいの断面寸法 → 厚さ1.5cm、幅9cm以上と12ヶ外はならない

## ○ 軟弱地盤における標準せん断力係数 $C_0$ 令88条地震4

$C_0 = 0.3$ 以上

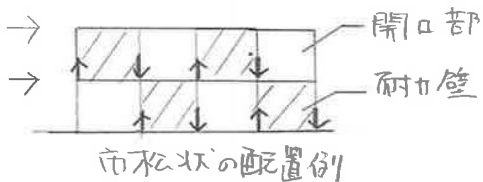
0.2以上

地震力(地震層せん断力) =  $C_i \times W_i$  ( $i$ は階数)



$\Sigma$ : その地方の震害に依り(1.0~0.7の数値)  
 $R$ : 建物の一次固有周期と地盤の種類に依り(1.0以下の数値)  
 $A_i$ : 地震層せん断力係数の高さ方向の分布を表す数値(1階:1.0, 2階以上:大々...)  
 $C_0$ : 標準せん断力係数(地盤の規模を表す数値)  
 一次設計: 0.2, 0.3, 二次設計: 1.0

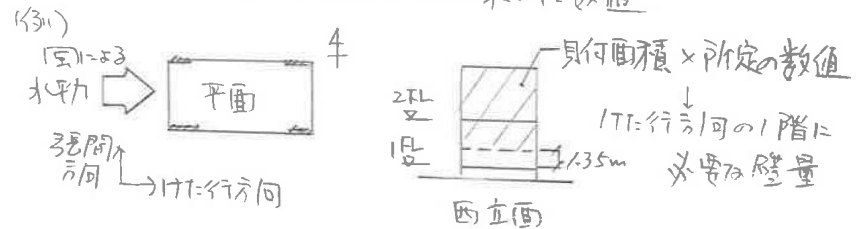
## ○ 1, 2階の耐力壁の配置



耐力壁の両側の柱には大きな引張力  
 圧縮力が生じる  
 → 市松状に設ける事は引張力と  
 圧縮力が相殺される配置となる

## ○ 同一の水平力に対して必要な耐力壁の量 令46条木項

→ その階及び上階の貝付面積(その階の床面から1.35m以下を除く)に所定の数値を乗じて=数値



## ○ 引張力のみを負担する筋かいの断面寸法 令45条

